

**令和元年度
長野県森林づくり県民税活用事業
木曽地域の実績**

長野県木曽地域振興局

1 防災・減災のための里山等の整備事業

(1) 里山整備方針作成事業

- ・森林づくり県民税を活用した「防災・減災」及び「住民等の利活用」のための里山の整備を進めるため、航空レーザ測量等の科学的知見や現地調査の結果等を踏まえ、優先的に整備していく箇所を特定、図面化することにより、森林づくり県民税の効果的な活用と取組の見える化を図る。

事業費：千円

事業内容	事業主体	R元年度 事業実績		補助率	事業費
・優先整備箇所の選定 ・里山整備方針(図面)の作成	市町村、森林整備協議会等	里山整備方針の作成	9箇所 (旧市町村数)	10/10	1,210

【内訳】

(単位：箇所、千円)

区分	上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
箇所数	1	1	4	1	1	1	9
事業費							1,210

(2) みんなで支える里山整備事業

- ・「防災・減災」の観点から、未整備の里山のうち、里山整備方針に基づき優先的に整備が必要な民有林（県及び市町村有林を除く）の間伐を推進する。
 - ・集落や主要なライフライン（道路、線路、電線等）に接する森林において、倒木の恐れのある危険木及び枯損木を伐採する。
- ※ 里山整備方針が作成されるまでの間、県が提示した航空レーザ測量等による優先整備箇所及びこれと一体的に行う箇所を補助対象とする。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R元年度 事業実績		補助率	補助金額
・間伐（搬出間伐を含む） ・路網整備	市町村、森林組合、NPO法人、森林所有者の団体等	里山の整備	78ha	9/10	[13,858] 19,108
・ライフライン等保全対策	市町村	危険木の伐採	5箇所	9/10	3,811

※ 危険木の伐採については、保全対象の重要性及び倒木が発生した場合の保全対象への影響を勘案して実施箇所を決定するとともに、電力会社等との連携により効率的、効果的な対策に努めることとする。

※ 補助金額の〔 〕は、森林づくり県民税の額（裸書きは国庫補助を含む金額）。

【内訳】

(単位：ha、本、千円)

区分		上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
里山の整備	整備面積	12	26	10	14	0	16	78
	補助金額	2,262	6,143	2,129	5,074	0	3,500	[13,858] 19,108
危険木伐採	(箇所数)			(1)	(2)	(2)		(5)
	本数			20	130	25		175
	補助金額			386	2,633	792		3,811

みんなで支える里山整備事業(間伐)の実施状況

上松町大字小川地区

施行前



住居や道路の上部に位置する急傾斜地の里山林です。

防災・減災効果を向上させるため、ヒノキの適正な間伐を行いました。

間伐により林内が明るくなり、下層植生の繁茂と残した木の太りや根張りの向上が期待されます。

また、併せてテープ巻きでクマの皮剥ぎ被害を防止します。

施行後



里山林の直下の住宅



伐採木の玉切・整理状況

(3) 道路への倒木防止事業

- 県が管理する道路の区域外(山林)から道路への倒木の恐れがある危険木が多く確認される箇所のうち、防災効果の高い箇所の危険木伐採を集中的に実施する。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R元年度 事業実績		補助率	事業費
・ 県管理道路沿線の危険木伐採	県	危険木の伐採	1 箇所	－	6,000

【内訳】

(単位：箇所、千円)

区分	上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
箇所数			(国道361号) 1				1
事業費			6,000				6,000

(4) 県単河畔林整備事業

- 県が管理する一級河川の区域外(民地)の河畔林及び市町村が管理する準用河川区域とその周辺の河畔林のうち、防災効果が高い箇所の整備を推進する。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R元年度 事業実績		補助率	事業費及び補助金額
・ 河畔林の整備（除間伐等）	県	県管理河川	2 箇所	－	12,260
	市町村	市町村管理河川	3 箇所	9/10	

【内訳】

(単位：箇所、千円)

区分		上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
県	箇所数	1 (中沢)					1 (伊奈川)	2
	事業費	990					1,496	2,486
町 村	箇所数	1 (大沢)		1 (松沢川)	1 (奥峰沢川)			3
	補助金額	1,800		5,220	2,700			9,720

「県単河畔林整備事業」の実施状況

施行前



施行後



上松町 中沢

2 県民協働による里山の整備・利用事業

(1) 里山整備利用地域の認定

認定内容	事業主体	R元年度 事業実績
地域活動、里山整備等の実施地域	里山整備利用推進協議会	里山整備利用地域の認定 1 地域

【内訳】

(単位：箇所)

区分		上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
認定地域数	計 画		1	3	1		1	6
	実 績			(末川) 1	(菅) 1			2

※ 平成30年度里山整備利用地域として認定された木曽町（末川）を含む。

(2) 里山整備利用地域活動推進事業

- ・地域住民による里山の整備・利活用を促進するため、長野県ふるさとの森林づくり条例に基づく「里山整備利用地域」において、地域住民による里山整備利用推進協議会の立ち上げ及び里山整備利用地域活動計画の作成等を支援する。（現地調査、地域活動（森林体験活動、薪の生産、山菜・きのこ栽培、野生鳥獣対策、植生保存活動等）、計画作成 等）

該当なし

(3) みんなで支える里山整備事業

- ・長野県ふるさとの森林づくり条例に基づく「里山整備利用地域」において、住民協働による里山の整備を促進するとともに、多面的な森林資源の利活用を進めることで、自立的・持続的な森林管理の構築を図る。（里山の整備（間伐、搬出間伐、植栽、下刈り、緩衝帯整備等）、路網整備）

該当なし

(4) 里山資源利活用推進事業

- ・里山の資源を有効に活用し地域に還元する仕組みづくりを進めるため、自立的・持続的な管理体制の構築に必要な資材の導入等を支援する。（資機材等の導入（チェーンソー、薪割り機、簡易ウインチ、移動式トイレ等）、遊歩道の整備）

該当なし

3 地域で進める里山集約化事業

- ・小規模個人有林、不在村者所有森林等が多い里山の森林整備を推進するため、間伐事業実施地の森林所有者の合意形成や、所有者の境界を明確化する取組を支援する。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R元年度 事業実績	補助率	補助金額
・森林所有者の同意取得 ・境界の明確化	自治会組織、 林業事業体等	集約化等面積 3ha	定額	45

【内訳】

(単位：ha、千円)

区分	上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
集約化面積			3				3
補助金額			45				45

4 地消地産による木の香る暮らしづくり事業

(1) 子どもの居場所木質空間整備事業

- ・モデル性の高い施設において、県産材を活用して行う「子どもの居場所」の木造化・木質化及び調度品・おもちゃの設置に対して支援する。

(単位：千円)

事業内容	町村	施設名	補助金額	備考
調度品・おもちゃの設置	木曽町	日義小学校 (机、椅子)	375	
	南木曽町	南木曽会館 (衝立サークル)	375	
	大桑村	子育て支援センター (テーブル、おもちゃ交換台)	165	
計			915	

「子どもの居場所木質空間整備事業」の実施状況



南木曽会館 おやこのひろば
木製サークルの設置（南木曽町）

子育て支援センター保育室
木製テーブルの設置（大桑村）



(2) 木工体験活動支援事業

- ・子供等を対象とした地域材を使った木工体験活動の開催を支援する。

(単位：千円)

事業内容	町村	体験内容	補助金額	備考
木工体験活動の開催	木曽町	公募に応募した小学生を対象に地域材のオリジナル箸・時計づくりを実施	375	
	南木曽町	南木曽小学校3年生を対象に地域材のイス・テーブルづくりを実施	144	
計			519	

「木工体験活動支援事業」の実施状況



小学校(高学年)によるオリジナル時計づくり (木曽町 御料館)

(3) 県産材公共サイン整備事業

- ・市町村や民間事業者等が、県産材を利用して観光地等において行う案内標識整備を支援する。

該当なし

5 松くい虫被害木利活用事業

- ・山林に放置され、有効活用されていない松くい虫被害木を有効活用し、地域が主体となって行う松くい虫被害木駆除の更なる取組を推進するため、松くい虫被害木を木質バイオマス発電の燃料（チップ）に資源化して利活用する取組等を支援する。（枯損木の伐倒、チップ化）

該当なし

6 森林の教育利用の推進

(1) 学校林等利活用促進事業

- ・周囲を森林に囲まれた長野県で学ぶ児童・生徒が森林・林業に親しみを感じ、次世代の森林づくりに理解を深めるとともに、学校林を活用した森林教育を推進するため、手入れが放置され利用困難になっている学校林について、森林税により集中的に整備する。（学校林の整備（除間伐等））

該当なし

(2) 自然保育活動フィールド等整備事業

- ・豊かな森林資源、自然環境を活用した「信州やまほいく」認定園の活動フィールドの整備等を行うことにより、森林を活用した保育の安全性確保及び教育環境の充実を図ります。（活動フィールドの林間整備、あずまや・トイレ等の付帯施設整備）

該当なし

7 観光地における景観形成のための森林等の整備

(1) 観光地等魅力向上森林景観整備事業

- 豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上を図るため、地域の景観に合致した森林整備等を推進し、観光地等の魅力向上を図る。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R元年度 事業実績		補助率	補助金額
・景観整備 ・ビューポイントの樹木の伐採	町村	地域の景観に合致した間伐等	3件	9/10	4,189

【内訳】

(単位：件、千円)

区分	上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
件数	1		2				3
補助金額	2,000		2,189				4,189

観光地等魅力向上森林景観整備事業の実施状況

施行前

木曽町開田 地蔵峠

施行後



上松町 寝覚の床



観光地の眺望景観を良好にすることで、観光地としての魅力を向上させます。

8 森林セラピー推進支援事業(施設整備)

- 本県の森林セラピーの利用を促進するとともに、関連する産業（観光、健康、環境、産業）との連携を強化し、地域資源として積極的に活用していくため、セラピー基地等の魅力向上を図るとともに、県内外へ積極的にPRを行い、利用者の増加、満足度の向上を図る。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R元年度 事業実績		補助率	補助金額
・案内板パネル等整備	上松町	赤沢自然休養林	1箇所	9/10 1/2	1,573

森林セラピー推進支援事業(施設整備)の状況

赤沢自然休養林に至る道路脇の案内版



9 森林づくり推進支援金

- 森林づくり指針に掲げる方針を踏まえつつ、森林に関する各地域の様々な課題解決のための国庫補助等の既存施策の対象とならない市町村の取組を支援し、事業実施後は市町村において成果の把握・検証を行う。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R元年度 事業実績		補助率	支援金額
市町村が行う身近な課題解決のための森林づくりの取組	市町村	実施市町村数	6町村	定額	5,629

【内訳】

(単位：千円)

支援金	上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
実施内容	(緩衝帯整備)	(病虫害対策)	(福島小学校 木製下駄箱他)	(緩衝帯整備)	(緩衝帯整備)	(病虫害対策)	
配分額	689	781	2,119	792	586	662	5,629

森林づくり推進支援金事業の実施状況

(別記様式第15号)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

上松町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	令和元年度緩衝帯整備事業(高山地区)
事業費	1,958,000円	(うち支援金: 689,000円)

事業目的

(別記様式第1号の「事業実績」から転記)

緩衝帯を整備し、そこを通過道としている野生鳥獣の行動範囲を制限・抑制することで田畑や住家付近に出没しにくくし、目撃や被害の発生を軽減する。

事業内容

(別記様式第1号の「事業実績」から転記)

高山地区 緩衝帯整備

面積 1.5ha

(交付要綱第2の第2項に規定する交付対象としない事業の該当無し)

施工前



施工後



事業効果

(別記様式第1号の「事業実績」から転記)

緩衝帯整備を行うことで、野生鳥獣の田畑や住家への接近を防ぎ、目撃や被害増加の抑制が期待できる。

事業評価と今後の取組

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

緩衝帯整備により、人の目に触れやすくなり野生鳥獣の通過道となっていたことの抑制が期待できる。

整備が終わった部分の再繁茂など維持管理に対し、行政・住民と協力して留意したい。

(別記様式第 15 号)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

南木曾町

No	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくりに関する事業	森林病虫害対策事業
事業費 759,459 円 (うち支援金: 731,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

マツノザイセンチュウによる森林病虫害被害が田立地区から発生し年々被害が拡大している。吾妻広瀬地区を除く町内全域に被害が拡大しており、町内の被害拡大を抑制する事が困難となってきた。

これ以上北上防止させない為にも国の補助事業駆除地域を大桑村との町村境付近の被害木のみとしていることから、その他の地域で発生した被害木処理を町単にて実施しているが、財政負担は増える一方で予算関係もあり処理できず、枯損木となり道、住宅等へ倒木する危険がある。

(2) 本事業の目的

森林病虫害被害で倒木の恐れがある危険木を伐採して人的被害防止と病虫害被害の拡大防止を図る

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 南木曾町吾妻妻籠地区、読書三留野地区

(2) 対象者 吾妻妻籠地区住民、南木曾中学校生徒

(3) 実施方法 森林被害木を伐採しただちに枝払い、玉切りをして 1 m³ごとに集積を行う。
集積したものに生分解性シートを被覆し薬剤を散布して 14 日間燻蒸。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30~34 年度) 85 m³ (年約 17 m³)

②令和元年度実績 29.18 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

被害木が倒れる前に処理すること事ができるため、人的被害防止につながる。また、北部地域への被害拡大防止に繋がる。

(2) 継続性

被害木を伐採するため、事業効果は見込まれる。

(3) 普及性

吾妻妻籠地区住民をはじめ観光客に対して被害対策に必要性を周知でき、南木曾中学校の生徒にも森林病虫害の駆除を通して、森林に関心をもってもらえると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

住宅や道路付近、中学校内にある森林病虫害被害木を処理する事により、倒木による被害を事前に防ぐことができた。

(2) 課題

処理を実施しても被害木がある為、継続して被害木処理を実施していく必要がある。

(3) 今後の取組方向

■事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

被害木が倒れる前に処理する事ができるため、人的被害防止につながる。
また、北部地域への被害拡大防止につながる。

□事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

□事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

南木曾町

No.	事業項目	事業名
2	みんなの暮らしを守る 森林づくりに関する事業	森林病虫害対策事業に対する付帯事業
事業費 55,000 円 (うち支援金: 50,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

マツノザイセンチュウによる森林病虫害被害が田立地区から発生し年々被害が拡大している。吾妻広瀬地区を除く町内全域に被害が拡大しており、町内の被害拡大を抑制する事が困難となっている。

(2) 本事業の目的

森林病虫害被害で倒木の恐れがある危険木伐採作業の付帯工(クレーン車等)嵩上げにより効率的な作業をすることで病虫害被害防止を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 南木曾町読書三留野地区

(2) 対象者 南木曾中学校生徒

(3) 実施方法 急傾斜や構造物付近の被害木処理に対して伐倒ができない箇所の処理においてクレーンで被害木を吊って伐採している。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~34 年度) 85 m³(年約 17 m³)

②令和元年度実績 1.62 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

被害木が倒れる前に処理する事ができるため、人的被害防止につながる。
また、北部地域への被害拡大防止に繋がる。

(2) 継続性

被害木を伐採するため、事業効果は見込まれる。

(3) 普及性

南木曾中学校の生徒にも森林病虫害の駆除を通して、森林に関心を持ってもらえると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

伐倒・集積が困難な場所での作業時に安全に作業することができ、付近住民への影響も最小限とすることができた。

作業時に弱っている被害木からの転落を事前に防ぐことができた。

(2) 課題

町内において処理時にクレーン車を用いなければ処理できない箇所がまだある為、継続して処置を実施していきたい。

(3) 今後の取組方向

☒ 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

☐ 事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

☐ 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

木曽町

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした力強い産業づくり	福島小学校木製下駄箱設置事業
事業費 2,949,900 円 (うち支援金: 1,966,600 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当町は総面積の 90%以上を森林(43,011ha)が占める森林町であるが、製材所が少なく木材の利活用が求められている。

(2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載

県産材を利用した木製下駄箱を小学校へ設置することで、児童教職員はもとより保護者に対しても県産材の普及推進を図る。

事業内容

(1) 実施場所

木曽町福島 福島小学校

(2) 対象者

福島小学校児童・教職員及び保護者等

(3) 実施方法

児童用玄関に木製下駄箱を設置する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30～令和 4 年度)

木製下駄箱設置 1 校

②令和元年度計画

木製下駄箱設置 1 校

着工前



竣工



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

地域を代表する県産ヒノキの有効活用と普及啓発を図り、普及推進を図る。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

他の小中学校及び公共施設等でも取り組みが期待される。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

学校だよりや学校開放日でPRを図る。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

計画通り設置が完了した。ヒノキの香りが児童玄関にただよい、木の香りや木材の良さを児童が感じることができた。

(2) 課題

木の香りを感じさせるため、塗装を施さなかったため、メンテナンスが心配される。

(3) 今後の取組方向

☒事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

日義小中学校でも木製下駄箱を導入予定。

☐事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

☐事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

木曽町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくりに関する事業	緩衝帯整備事業
事業費 159,500 円 (うち支援金: 152,400 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当町は総面積の 90%以上を森林(43,011ha)が占める森林町であり、遊休地の林地化が進み町内各地でニホンザルやイノシシ等による田畑や住居周辺での被害や目撃が増加し、住民生活に影響が出ている。また、森林所有者の高齢化が進んでおり、自ら森林を効率的かつ適正に管理することが困難になっている。

(2) 本事業の目的

((1)の課題への対応方向について記載)

加害獣が出没しにくい環境をつくることで農林業被害の軽減を図り、緩衝帯整備 5 ヶ年計画に基づき、今年度は三岳地区において 0.05ha を整備する。

事業内容

(1) 実施場所

木曽町三岳黒田地区

(2) 対象者

三岳黒田地区住民

(3) 実施方法

刈り払い機等を用いて人力により藪払い及び柿木の伐倒

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30～34 年度)

緩衝帯整備 11.0ha

②令和元年度計画

緩衝帯整備 0.05ha

木曾町三岳黒田地区

着工前



竣工



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

加害獣が出没しにくい環境をつくることで被害の軽減と森林整備に対する森林所有者の意識向上に繋がる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

継続的に緩衝帯整備を実施することで、農林作物への被害減少効果は見込まれる。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

事業対象地区住民をはじめ、観光客に対し被害対策となる緩衝帯整備の必要性を周知できると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

見通しがよくなり、鳥獣発生及び農作物被害の減少が期待される。また、地域住民の追い払い活動にも効果的だと思われる。

(2) 課題

地域住民による整備後の維持管理を定期的を実施してもらいたいが、いずれも高齢化地域のため困難と思われる。

(3) 今後の取組方向

☒事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

毎年、緩衝帯整備の地区要望があるため、定期的に事業を実施したい。

☐事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

☐事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

木祖村

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくりに関する事業	野生鳥獣対策緩衝帯整備事業
事業費 2,640,000 円 (うち支援金: 792,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当該地域は山林と農地に挟まれた村道奥木曾 1 号線沿いであり広域的な森林施業は困難であり小規模ではあるが景観整備や有害獣の対策が必要な地域である。また、飯米原地区では、有害鳥獣による畑への被害や住居周辺でのイノシシ等による掘り起こし被害が起きている。

(2) 本事業の目的

加害獣が出没しにくい環境をつくることで農林業被害軽減を図り、村内緩衝帯整備 5 ヶ年計画に基づき、今年度は飯米原地区において 5.797ha を整備する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 木祖村小木曾飯米原地区

(2) 対象者 飯米原地区住民

(3) 実施方法 刈払機を用いて低木の除去を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～34 年度)

緩衝帯整備 35ha

②令和元年度実績

緩衝帯整備 5.797ha



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

加害獣が出没しにくい環境をつくることで被害の軽減と森林整備に対する森林所有者の意識向上に繋がる。

(2) 継続性

平成24年度から緩衝帯整備に着手し、効果検証を継続しながら対策を進めており、継続性は見込まれる。

(3) 普及性

地域住民に対して被害対策となる緩衝帯整備の必要性を周知できると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

この地区は山からすぐの距離に集落と農地が存在し、農業被害や鳥獣被害の多い地区であった。近隣でクマの出没が多く、地域住民や農家が日常生活に不安のある日々を過ごしていた。今回緩衝帯整備を実施したことにより、野生鳥獣が身を隠せなくなり集落・農地周辺への出没を抑制し、人身被害や農業被害を未然に防ぎ、減らすことが期待できる。

(2) 課題

数年のうちに事業実施前の姿に戻ってしまうことが懸念されるため、地域住民による継続的な維持整備が必要となる。

(3) 今後の取組方向

☒ 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

鳥獣による被害に対し防除効果が高く見込まれるため今後も事業を継続実施していく。

☐ 事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

☐ 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

王滝村

No.	事業項目	事業名
	森林を支える豊かな地域づくりに関する事業	令和元年度 緩衝帯整備事業
事業費 1,078,000円 (うち支援金: 586,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当該地域は山林と御岳湖に挟まれた村道 1 号線沿いであり広域的な森林施業は困難であり小規模ではあるが景観整備や有害獣の対策が必要な林地である。

(2) 本事業の目的

加害鳥獣が出没しにくい環境をつくることで農林業被害の軽減を図り、村内緩衝帯整備 5 ヶ年計画に基づき今年度は崩越地区において 0.79ha、田島地区において 2.01ha を整備する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所

王滝村崩越地区、田島地区

(2) 対象者

崩越地区、田島地区住民

(3) 実施方法

刈払機等を用いて人力により、つるや支障となる低木の除去を行う

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～34 年度)

緩衝帯整備 20ha

②令和元年度計画

緩衝帯整備 2.8ha

崩越地区



田島地区



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

加害鳥獣が出没しにくい環境をつくることで被害の軽減と森林整備に対する森林所有者の意識向上に繋がる。

(2) 継続性

定期的な維持管理を行う予定であり、効果の継続性は見込まれる。

(3) 普及性

崩越地区、田島地区住民をはじめ観光客に対して被害対策となる緩衝帯整備の必要性を周知できると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

里山整備を行った結果、農地周辺の有害獣出没が減少した。

隣接する村道1号線は村内外の車両も多く、見通しも良くなり環境整備の観点からも評価されているとみられる。

(2) 課題

今後さらに森林所有者の高齢化が進み手入れが行きとどかない森林が増加する傾向にあることから里山整備と合わせ面的な整備が必要となる。

(3) 今後の取組方向

☒事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

今後も事業を継続し森林所有者や農業経営者に里山整備と併せて広くアピールし有害獣による被害軽減や出没しにくい環境づくりを進めていきたい。

☐事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

☐事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村
名

大桑村

No.	事業項目	事業名
1	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	令和元年度森林づくり推進支援金事業（松くい虫被害防除等病害虫防除）
事業費 1,452,000円（うち支援金：662,000円）		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫地区保全森林であり、現在まで、松くい虫の被害は出ていない地域であるが、何らかの原因で松の大径木（胸高 1.8～2.0m・樹高 25～30m）が枯損している。

検体調査でマツノザイセンチュウは検出されなかったが、マツノマダラカミキリの幼体にとっては格好の餌場であり、個体数の増加に寄与してしまうことが懸念される。また、15m以内の箇所に J R 中央線が通っており、今後風雨により、倒木となった場合は公共交通（ライフライン）への影響が考えられる。

(2) 本事業の目的

枯損している松の伐採。マツノマダラカミキリの幼体が存在する可能性もあるため、燻蒸処理を現地にて実施する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 大桑村大字須原

(2) 対象者 地権者 1 名 地域住民 400 名

(3) 実施方法

伐採木が J R の線路に近いことから、通常の伐倒では影響が考えられる。クレーンの持込も難しいことから、ウィンチにより、吊おろしながらの伐倒を行う。周辺支障木についても同様の伐倒方法を実施し、伐倒方向が J R に影響するものはチルホールにより牽引する

伐倒後、松については燻蒸処理を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画

松 1 本、支障木（ヒノキ）11 本

②平成 年度実績

松 1 本、支障木（ヒノキ）11 本



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

公共交通（JR）の安全確保と景観の向上
森林病害虫に対する森林所有者の意識向上

(2) 継続性

松くい虫の原因であるマツノザイセンチュウの媒介者であるマツノマダラカミキリの産卵場所の減少及び、棲みついた幼体の駆除による個体数の減少が考えられ、森林病虫害に対する一定の継続性が考えられる。

(3) 普及性

国道、県道並びに商業施設駐車場からも枯損木がよく見える状況であるため、伐採後の状況は目に見える形となる。また、公共交通機関に対して森林病虫害による枯損木の危険性についての啓発に繋がると考えられる。

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

商業施設から見えた枯損木が見えなくなり景観向上が図られた。
公共交通（JR）に対する一帯の立木に対する整備の必要性が説明できた。

(2) 課題

地権者の森林病虫害に関する意識や知識は一定以上の向上が図られたと考えられるが、今回関係のなかった地域住民の病虫害に対する意識向上をどう行っていくのかが課題。

また、今回の施業箇所は住民が簡単に近づける場所ではないため、森林税のPRをどのように行うのかも課題。

(3) 今後の取組方向

☐ 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

☐ 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

☒ 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

事業完了の為

森林税を
活用した事
業地にのぼ
りを掲示し、
広く県民の
皆様に現地
を見ていた
だきます。



広報用ののぼり旗を作成し、町村森林組合に配布
(森林づくり推進支援金 現場(大桑村))



6月開催の県植樹祭の展示ブースPRでパネル展示
(木曽町三岳)

地域会議の実施状況



地域会議の開催状況



地域会議委員による木工体験活動支援事業を調査
(木曽町 御料館)

県民税活用事業の取組の評価・検証や取組情報を発信し広く地域住民に周知します。

(2) ^{もり} 森林の里親促進事業

- ・里山や山村集落へ県が仲立ちとなり企業等の社会貢献活動や福利厚生活動を誘導し、森林整備と交流を通じた地域活性化を図る。

(単位：件)

事業内容	事業主体	R元年度 事業実績		備考
・新規契約のための企業の仲介 ・契約企業のフォローアップ	県	企業等の契約件数	1	H31,4,1契約

【内訳】

区分	里子	里親企業等	里親による支援内容	備考
実施状況	王滝村	愛知製鋼（株）	・森林整備等の支援金20万円/年 ・アダプトサインの設置、契約記念式典の実施、契約地の除伐、木工制作・そば打ち等体験イベントを2回を実施	

森林の里親促進事業の活動の実施状況



アダプトサイン前で記念撮影
(王滝村)



企業社員による除伐活動
(王滝村)